



NPO 法人

山夕三記念

2008 年

秋号 No.41

すまい・まちづくり文庫レター

2008 年 秋のフォーラム《予告》

「いまジェイン・ジェイコブスを語る

ーサステイナブルなまちづくりの未来ー」(仮)

講師 窪田 亜矢准教授(東京大学工学部都市工学科)

日時:2008年11月29日(土)午後1:30~5:00

会場:大阪・梅田スカイビル・タワーウエスト会議室

趣旨:より魅力的で成熟した都市、都市空間のあり方を、ジェイン・ジェイコブス(1916-2006)の先見性や意義を軸にして考える。今日の都市を持続可能で人間的なまちにつくり変えるための視点、方法を語っていただく。

<窪田亜矢先生プロフィール>

東京生まれ。東大都市工学科卒、コロンビア大学修士課程修了、東大大学院博士課程修了、東大助手、工学院大学准教授を経て現職。工学博士。『限界が活きるニューヨークのまちづくり~歴史・生活環境の動的保全』(学芸出版社、2002年)著者

<J.ジェイコブスについて>

『地域開発』2006年8月号「特集・J.ジェイコブスの仕事と都市思想」の巻頭で、大阪市立大学の矢作弘教授は次のように紹介:「NYマンハッタンのダウンタウンに暮らし、建築雑誌の記者をしながら都市観察眼を磨き、1961年に『アメリカ大都市の死と生』を書き上げた・・・学会からは冷淡な評価を得ることが多かった。しかし、米国の都市系ネットが掲載

《「夏の学校 2008 イン・ジョグジャカルタ」開催される》

本年の夏の学校は、インドネシアの歴史都市・ジョグジャカルタ市で、UGM(ガジャマダ大学)の全面的なご支援・ご協力をえて、8月18日から21日まで実施し成功裏に終了しました。学生は日本の14大学のほかUGM、UNDIP(デボネゴロ大学)からの参加を得て70名以上、教員は西山文庫関係の他UGM、タイのRMUTTなど約30名という大規模な企画となりました。特徴のある4つのフィールド(密集市街地、歴史的市街地、農村震災復興、陶磁器産業村)を設定して、フィールドワーク、ワークショップ、プレゼンテーション(全て英語)を行いました。20日午後にはUGMで「コミュニティ再生に関する国際会議ー震災復興、住宅、地域居住」を開催しました。詳細は次号特集で紹介。

する「20世紀にもっとも影響力のあった本」ランキングではトップの評価」。ジェイコブスの死亡を伝えたニューヨークタイムズ2006年4月では大要次のように紹介:「彼女は20世紀の都市計画を批判し、都市をより多様で、高密度、ダイナミックな方向へと再建すべきとラジカルに提案」

目次-Contents-

秋のフォーラム予告	1
マイライフマイワーク(研究)	／大垣 直明 2
まちづくり最前線	／間野 博 4
書評	／三村 浩史 5
マイスタディ:若手研究者はいま	／三村 達也 6
マイスタディ:若手研究者はいま	／西尾幸一郎 7
エッセイ・西山先生と私	／石東 直子 8
2008年春季フォーラム報告:建築家 遠藤秀平	
「建築行為の可能性	
~建築家が語る、街・人・建築~」	10
文庫総会記念講演:アンドレア・ウルシマ	
「西山夕三と1970年日本万博博覧会における未来都市のコアモデル:起源と意味」	14
文庫よりお知らせ	16
●総会報告 ●寄贈本 ●編集後記	

『西山夕三の住宅・都市論』と『昭和の日本のすまい』割引のご案内

二つの出版物とも西山文庫に注文いただければ、著者割引でそれぞれ3000円と4000円、送料無料でお届けします。①メール:npo@n-bunko.org ②FAX:0774-73-5701へお申し込み下さい。